

1 児童生徒を取り巻く状況

児童生徒一人一人が、生涯に渡り、自分の健康について主体的に、自分のこととして意識し、継続してその維持・向上に努めること、すなわち生涯に渡る心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現を図ることを目標としている。

現在、児童生徒の健康教育を進めるために、体力・保健・給食面において様々な取組を行っているものの、体力の低下、食物アレルギー等の状況、朝食の接種状況等、児童生徒の健康教育を進めていく上では、様々な方面からの組織的な取組を継続的に行っていく必要がある。

2 課題及び問題点

- 運動習慣等調査において、1週間の総運動時間が0分の児童生徒の割合が過去最多となるなど、運動を行うことに関する興味関心、意識、行動が低い割合が多くなっている。
- 食物アレルギーの児童生徒の増加やオーバードーズの低年齢化、感染症等への対応等、児童生徒に係る健康教育の推進に関する課題が多様化している。
- 1週間に朝食を食べないことがある児童生徒の割合が増加（R3:3.6%⇒R5:4.4%）していることから、食育に関する意識の高揚が必要である。
- 各班からの取組を周知しているものの、それぞれの関連性を明確に持たせた周知に関する取組が十分でない。

3 取組について

- 前年度末に、保健体育課で行っている事業一覧（各種取組・資料等）を県立学校及び市町村教育委員会に周知し、次年度の計画への活用促進を図った。
- 児童生徒の健康・体力づくりに関する事業の関連性を周知し、必要な取組により具体的に示すことで、各学校の課題に応じた取組を確認するとともに、健康づくりに必要な取組を重点的に行うように周知する。

